

春風秋霜

9月号

令和5年9月21日
島田市教育委員会だより
教育長 山中史章

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 日本人の活躍を見て感動しています

最近、国際大会のスポーツ中継番組が多く、わくわくしながら応援しています。

ラグビーのワールドカップでは日本対チリ戦で、日本のラグーマンがトライを挙げ大活躍しているところを見て感動しました。その後9月17日に行われた、日本対イングランド戦では、残念ながら負けてしまいましたが、最後まで諦めないラグーマンの心意気を見せてもらいました。

また、9月12日に行われた、サッカーの交際親善試合(キリンチャレンジカップ)では、日本対トルコの試合が行われ、個人技だけでなく、連携したパスがうまくつながり4対2で勝利を得ることができました。この試合は、安心して見ていられました。サッカーでは、対トルコ戦も対ドイツ戦も日本勝利で終わりました。以前に比べると、少し余裕で見られる気がしたのは、私だけでしょうか。日本選手のレベルが上がってきたように感じます。

バスケットボールでは「FIBAバスケットボールワールドカップ2023」が行われました。8月31日の日本対ベネズエラ戦では、富永選手の3ポイントをはじめ、各選手が力を出し切り「日本86-77ベネズエラ」で日本が勝利を収め、あと一勝すればパリオリンピック出場の切符を手に入れるところまでできました。オリンピック出場権をかけた9月2日の日本対カーボベルデ戦では、「日本80-71カーボベルデ」という結果で、日本が「パリ2024オリンピック」出場という偉業を成し遂げました。この試合の逆転劇にも感動しました。

そのような中、9月17日に、バスケットボールのBリーグ所属で静岡市を拠点に活躍しているベルテックス静岡と島田市の連携協定の調印式がローズアリーナで行われました。私も調印式に参加したのですが、調印式の前に小学生の試合が行われ、調印式の後は、ベルテックス静岡と東京ユナイテッドバスケットボールクラブとの試合が行われました。目の前で繰り広げられる試合は迫力があり、ボールの奪い合いやディフェンスとオフェンスの激しい攻防にぐんぐんと引き込まれていきました。会場にいるサポーターの皆さんの大声援の中で行われる試合に大興奮といった感じでした。会場には、小学生や中学生もおりましたので、一人一人の選手の姿を、未来の自分の姿と重ねている人がいたのではないのでしょうか。いつか自分も、プロの選手になりたいという夢を抱いた子供たちがきつといたと思います。



<応援の時に使ったボード>

私も、高校時代に吹奏楽部で太鼓を叩いていましたし、3年生の時には硬式テニスクラブが硬式テニス部になり、テニス部の活動も行いましたので、スポーツを見ているとワクワクドキドキしてきます。

現在、中学生の休日部活動の地域クラブ化を検討しているところですが、子供たちの興味関心に応えられるような活動ができるように考えていきます。スポーツ活

動や文化活動に関わっているみなさんのご協力やご支援をいただきながら、スムーズに休日部活動の地域クラブ化を進めていきたいと思っております。

2 島田高校での教員養成プロジェクト講座に参加してきました

島田高校の後藤校長先生に、将来教員を目指している生徒に対して、島田市教育委員会から講師を派遣して欲しいというお話をいただき、私と中村主席と岩尾主席と一緒に講座に参加してきました。私からは、教員になる方法や、待遇について話をしました。また、主席からは、教員のやりがいや児童生徒との日頃のやりとりや、授業の楽しさについて話をしました。高校生は、日頃、教員の仕事は、ブラックで大変だということしか聞いていなかったらしく、教員になることを迷っていた生徒が多かったようです。今回、教員養成プロジェクトに参加して、教師のやりがいや待遇のことを聞いて、教員になりたいという気持ちを強くしたという感想を持った生徒がいました。是非、教員になりたいという夢を叶えてほしいものです。

島田高校では、今後、公務員養成プロジェクト講座と医療関係者養成プロジェクト講座を開催する予定だそうです。高校生の夢が叶うことを祈っています。

肘かけ椅子

「アンコンシャス・バイアス」

図書館課長 静賀史乃

アンコンシャス・バイアスは、無意識の思い込み（偏見）で、自分では気付いていない「ものの見方やとらえ方のゆがみや偏り」のことをいいます。性別、世代、地域、学歴、血液型など日常にあふれていて、私たちは過去の経験や見聞きしたことに影響を受けています。無意識の思い込みによる言動が相手を傷つけたり、コミュニケーションを阻害したりすることもあります。

内閣府男女共同参画局で、令和3・4年度に調査された「性別による無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に関する調査」によると、アンコンシャス・バイアスという言葉の認知度は21.4%で、男女ともに性別役割意識として高い割合だった項目は、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」「女性には女性らしい感性があるものだ」「女性は感情的になりやすい」「育休中の女性は重要な仕事を担当すべきでない」「デートや食事のお金は男性が出すべきだ」となっています。

先日、静岡新聞のSDGs特集で、保育・教育現場の「ジェンダー平等の実現」への取り組みとして、ランドセルの色や制服の多様化、男女混合の名簿が主流になったことなどが掲載されていました。ある保育園では、卒園記念のかばんを女の子は赤、男の子は青としていましたが、ある時男の子が「赤がよかった」と言ったことから、性別で色分けしていることに気付き、水色に統一にしたとのことです。またある保育園では、女の子が昆虫をつかんで遊んだり、男の子がままごとをしたりすることは日常の光景になっているそうです。

アンコンシャス・バイアスという言葉を知ってから、自分にも様々な思い込みがあることに気付くようになりました。なかなか固定観念を取り除くことは難しいものですが、思い込みを押し付けないよう意識していきたいと思っています。